

アンケート実施の有無断言できず

小泉氏には厳しい意見

昨年6月に市川市議会に設置された調査特別委員会（百条委員会）は23日、アンケート調査を実施したとして政務活動費で切手を大量購入した小泉文人議員と鈴木啓一元議員についての調査を終え、報告書をまとめた。報告書では「アンケートの実施の有無については、これを断言できるだけの確証を得ることはできなかった」としながらも、小泉氏に対しては「調査にとっても協力的とは思われない様子が多々見受けられた」「委員の疑念を払しょくするまでにはついに至らなかった」と厳しい言葉を並べた。同委員会は、9月定例市議会の最終日に調査結果を報告する。

両氏は平成23～25年度にアンケート調査を8回実施したとして、切手代とアンケート用紙印刷費約400万円を政務活動費から支出（その後返納）しかし、▽複数回のアンケートで、設問内容や各設問の回答割合が同じ▽同24、25両年度のアンケート用紙を印刷したと議事事務局の職員が見る会社「クアン」はしていない——など不可解な点があった。百条委では小泉氏や青山氏らに対する証人尋問が行われ、クアンでは印刷が行われていなかったにもかかわらず、小泉氏自身が架空の領収書を発行していたことが判明。実際の

印刷は、都内にある別の印刷会社が行ったとされているが、その領収書や納品書、さらには小泉氏に返信されたアンケート用紙の実物は残っていないという。ただこの印刷会社は、同委員会に領収書と納品書の控えのコピーを提出。これに対し同委員会は、売上の計上や出荷を証明する帳簿や書類の提出も同社に求めたが、顧客のプライバシーなどを理由に応じてもらえなかった。また、小泉氏はこれまで本紙の取材や市の監査で青山氏と合同で実施したと答えていたアンケート調査について、一転して合同実施を否定。一方の青山氏は、アンケート調査は実施しておらず、購入した切手は後援会の会報送付に使用したと証言した。しかし、青山氏が実施したとしていたアンケートについては議会事務局に報告書が提出されており、書式や各設問の回答割合などは小泉氏が実施したとする別のアンケート結果と全く同じだった。この報告書については、青山氏も議会事務局の職員も「小泉氏が提出したと思う」と証言している。

今回百条委がまとめた報告書では、印刷会社から書類が提出されていることから、「アンケートを実施していない」と断言することまでは困難とした。ただ、クアンが印刷をしていなかった事実について、小泉氏が委員に誤認を与えようとしているようにすら感じられる証言や態度をとっていたともいえるとして、「委員にさらなる疑念を抱かせることになった」「アンケートは本当に実施された」などとは到底考えることができないといった心証を形成している委員が多い」と指摘。鈴木氏が体調不良を理由に一度も証人喚問に応じなかったことも含め、アンケート実施の証明が積極的になされなかったことが調査の進行を阻害したとして、「小泉氏らの責任は決して軽いものではない」と言及している。

9月議会は同月2日開会。最終日は同月末頃になる見込み。